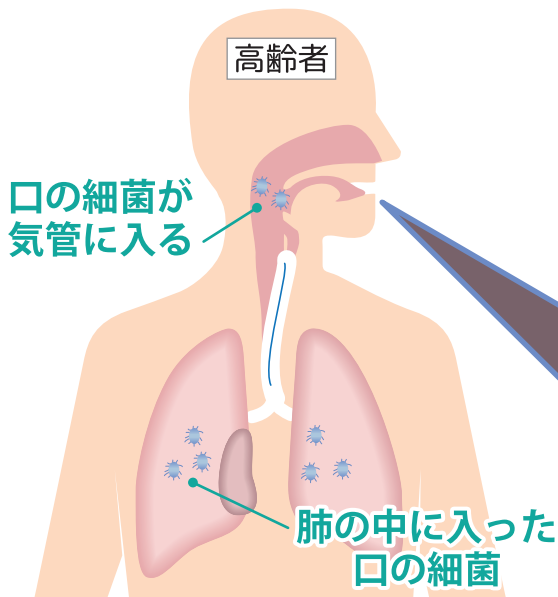




口の中の細菌が誤嚥性肺炎を引き起こす経路



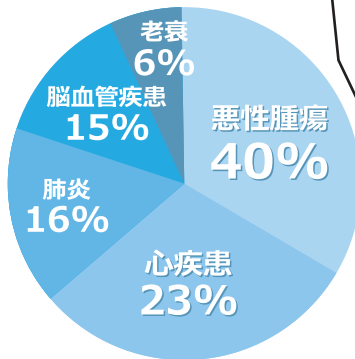
口の中のケアが悪いと、口腔内の細菌が気管から肺に取り込まれ肺炎を起こす可能性が高まります。食事中に誤って気管に入る場合と、睡眠中に細菌を含んだ唾液を吸引してしまう場合があります。どちらも咳をする力の弱い高齢者に起こりやすいです。



65歳以上の高齢者の主な死因別死亡率の推移

高齢者の死因別死原因では、肺炎は悪性腫瘍、心疾患について多く肺炎の中でも多くは誤嚥性肺炎が原因と言われています。

「平成23年度版 高齢社会白書」内閣府 28頁、図1-2-3-8より改編



誤嚥性肺炎とは

口の中には数千億もの細菌がいます。口の中のケアが悪いと、細菌を含んだ唾液や食物が食道から胃ではなく、誤って気管から肺に入ってしまう、誤嚥性肺炎という病気が起こります。起きている間だけでなく、寝ている間にも細菌を含んだ唾液を吸い込んで起こることがあります。普通は細菌が誤って入りそうになっても、咳をすることにより吐き出すことができます。しかし高齢者の場合、吐き出す力が弱いだけでなく、反射が低下するためにむせるということもなく知らないうちに誤嚥性肺炎を起こすことが多くなっています。

